

病 理 部

1 構 成 員

	平成18年3月31日現在
教授	0人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	3人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	6人

2 教員の異動状況

- 井出 良浩（助手）（H16.9.1日（採用）～H17.9.30 退職）
 三浦 克敏（助教授，部長）（H5.8.1日（採用），H17.4.1より部長～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成17年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（3編）
そのインパクトファクターの合計	5.23
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	16編（16編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. HanGui Ping, 三浦克敏, 小杉伊三夫, 河崎秀陽, 筒井祥博：表皮増殖性因子（EGF）注入による，脳におけるサイトメガロウイルス感染の増強（Enhancement of cytomegalovirus infection in brains by infusion with epidermal growth factor（EGF））. 日本病理学会会誌94:

231, 2005

2. 三浦克敏, 韓桂萍, 井出良浩, 原田英一, 筒井祥博: アプタマーを用いたALアミロイドの分析. 日本病理学会会誌94: 223, 2005

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Matsukage S, Kosugi I, Kawasaski H, Miura K, Kitani H, Tsutsui Y: Mouse embryonic stem cells are not susceptible to cytomegalovirus but acquire susceptibility during differentiation. Birth Defects Res A Clin Mol Teratol. 76: 115-25, 2006.
2. Isoda H, Imai M, Inagawa S, Miura K, Sakahara H: Magnetic resonance imaging findings of angiosarcoma of the scalp. J Comput Assist Tomogr 29: 858-62, 2005
3. 鈴木一也, 高持一矢, 船井和仁, 浅野寿利, 春藤恭昌, 数井暉久, 三浦克敏: 【局所進行肺癌の外科治療2005年】拡大術式 大動脈の切除・再建を伴うT4肺癌の外科治療. 胸部外科58: 963-968, 2005
4. Takahashi M, Koyama H, Matsubara T, Murata H, Miura K, Nagano A: Mixed germinoma and choriocarcinoma in the intramedullary spinal cord: case report and review of the literature. J Neurooncol. 76: 71-5, 2005

インパクトファクターの小計 [5.23]

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 原田英一, 韓桂萍, 井出良浩, 三浦克敏, 松影昭一, 土田 孝, 筒井祥博, 堤 寛: 子宮頸部に発生したGlassy cell carcinomaの2症例. 日本病理学会会誌94: 312, 2005

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 神藤 修, 鈴木昌八, 坂口孝宣, 鈴木淳司, 福本和彦, 太田茂安, 稲葉圭介, 三浦克敏, 中村 達, 今野弘之: 胆管癌におけるclaudin-4発現様式の検討. 日本外科学会雑誌107: 698, 2006
2. 松下雅広, 松原希央, 牧野さつき, 住吉信一, 川村欣也, 本城裕美子, 早田謙一, 小林良正, 竹原康雄, 三浦克敏: 特異な画像所見を呈した, 肝の多発性海綿状血管腫の一例. 日本消化器病学会雑誌102: A331, 2005
3. 西島誠聡, 鈴木和雄, 大園誠一郎, 河崎秀陽, 三浦克敏, 筒井祥博: 術後17年後小脳髄膜腫の腎転移・肺転移が疑われた症例. 泌尿器科紀51: 704, 2005
4. 細川智弘, 佐野倫生, 西村行秀, 神谷光太郎, 三浦克敏, 長野 昭: 横紋筋肉腫成分を伴った高齢発症骨肉腫の1例. 整形外科56(11): 1467-1469, 2005
5. 谷口千津子, 岡本早織, 川端弥生, 原田英一, 中島 昭, 三浦克敏, 松影昭一,

- 土田 孝, 筒井祥博: 子宮頸部glassy cell carcinoma 4症例の臨床病理学的検討. 日本臨床細胞学会雑誌44(Suppl.2): 440, 2005
6. 神藤 修, 鈴木昌八, 坂口孝宣, 川村欣也, 福本和彦, 太田茂安, 稲葉圭介, 新井義文, 三浦克敏, 今野弘之: c-kit陽性の脱分化肉腫成分を伴った下大静脈原発平滑筋腫の1例. 日本外科系連合学会誌30: 807-813, 2005
 7. 細川智弘, 佐野倫生, 西村行秀, 神谷光太郎, 志賀克元, 長野 昭, 三浦克敏: 左踵骨骨腫瘍の1例. 東海骨軟部腫瘍17: 25-26, 2005
 8. 佐野倫生, 細川智弘, 澤田智一, 古橋亮介, 長野 昭, 三浦克敏: 骨シンチグラム・副腎シンチグラムでは発見できずPETで骨転移を診断しえた悪性褐色細胞腫の1例. 整形外科56: 783-786, 2005
 9. 那須初子, 杉山浩一, 竹原康雄, 杉山雅洋, 阪原晴海, 磯垣 淳, 三浦克敏, 五十嵐達也: 乳腺アポクリン癌4例の画像所見. 日本医学放射線学会雑誌65: 168, 2005
 10. 餅田良顯, 磯垣 淳, 数井暉久, 藤澤泰子, 三浦克敏: 病理組織診断と治療方針に難渋した小児甲状腺癌の1例. 日本小児外科学会雑誌41: 555, 2005
 11. 徳山 勤, 太田誠志, 横田尚樹, 西澤 茂, 難波宏樹, 三浦克敏: 成人男性のテント上に発生した未分化腫瘍の1例. 藤田学園医学会誌28: 96-97, 2004
 12. 山村康弘, 太田誠志, 徳山 勤, 横田尚樹, 西澤 茂, 龍 浩志, 難波宏樹, 向高洋幸, 馬場 聡, 三浦克敏: Olfactory Neuroblastomaの1例. 藤田学園医学会誌28: 87-88, 2004
 13. 塚本勝之, 太田誠志, 横田尚樹, 西澤 茂, 横山徹夫, 龍 浩志, 難波宏樹, 三浦克敏, 田中篤太郎: 髄膜腫とグリオーマの共存した側頭葉腫瘍. 藤田学園医学会誌28: 74-75, 2004
 14. 神藤 修, 鈴木昌八, 坂口孝宣, 東 正樹, 太田茂安, 稲葉圭介, 三浦克敏, 今野弘之, 中村 達: 残肝多発再発に対する3回の外科治療により長期生存中の肝内胆管癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌66: 548, 2005

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 山崎英子, 三浦克敏, 小川 博, 立山 尚, 柴本忠昭: Metaplastic thymomaにおけるspindle cellsの解析. 日本病理学会会誌94: 366, 2005

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成17年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成17年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)

(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	2件 (270万円)

- (5) 受託研究または共同研究
遠州予防医学研究所 人体病理学研究

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

- (2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名

城南病理静岡県病理医会 2005年7月, 浜松

- 3) シンポジウム発表

第45回日本臨床検査医学会東海北陸支部総会, ホルモン療法抵抗性前立腺癌の組織学的特徴,
2006.3月, 浜松

- (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本病理学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリース数は除く)	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	6件

- (2) 国内共同研究

アミロイドの病理診断につき, 国内の施設よりコンサルトを受けている。半田市民病院, 聖隷浜松病院, 岩手医科大学と共同研究をおこなっている。

東京の城南病理と静岡県病理医学会との合同検討会を毎年1回交互に開催している。

(3) 学内共同研究

泌尿器科と共に再燃前立腺癌に対する化学療法について静岡前立腺癌研究会グループをつくり、多施設が参加した共同研究をおこなっている。病理部門を担当し、全例の病理再診断をおこなっている。

第一外科とは肺がんや悪性中皮腫などの温熱化学療法における治療前後の組織変化の評価をおこなっている。

外科と放射線科との合同乳癌カンファレンスを毎月1回おこなっている。

脳外科とは東海脳腫瘍病理検討会や静岡神経病理研究会に共同で参加、発表をおこなっている。

整形外科とは東海骨軟部研究会、静岡骨軟部研究会に共同で参加、発表をおこなっている。

産婦人科とは症例検討および胎盤や婦人科悪性腫瘍について共同発表、研究を行っている。

10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	1件

1. 浜松ホトニクスとバーチャルスライドの開発と応用に関する研究

浜松ホトニクスが開発したバーチャルスライド用いて病理組織実習を一部の学生教育に試行しているが、学生からの評価は高い。これを広く教育の場で活用すべく、実際の授業で活用を試みている。

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 頭部血管肉腫のMRIの所見をまとめた。
2. 脊髄発生の胚細胞腫と絨毛癌について症例報告とレビューをおこなった。
3. ホルモン療法抵抗性前立腺癌症例については、組織像の特徴をまとめて、第45回日本臨床検査医学会東海北陸支部総会、第95回病理学会総会で発表をおこなった。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. アプタマーを用いたALアミロイドの分析をおこなった。ALアミロイドと特異的に結合するアプタマーが見つかった。
2. バーチャルスライドを用いて学生に病理所見の捉え方の講義を行った。学生からは顕微鏡を用いた講義よりも目が疲れず、わかりやすいと好評を得た。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 我々が初めて発表したグリセロリン脂質結晶沈着症について、2005年病理学会に佐賀医大から発表があり、共同研究をおこなうことになった。
2. アミロイド症については症例のコンサルトが国内の施設から多く寄せられている。
3. 2006年3月2日から4月16日までドイツフライブルグ大学より医学生6年のAnima-Katharina

Iwischutzさんを受け入れ、症例検討会、病理学会、文献抄読会に参加させ、5、6年次医学生と共に勉強する機会をもった。共に刺激となり、話題も共通するものが多く、お互いの親交を深めた。彼女は病理医を目指す予定であり、今後とも研究面で協力していけるものと期待している。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 公開講座 理数大好きモデル地区事業 人体の不思議講座 2月15日（水）静岡新聞，中日新聞